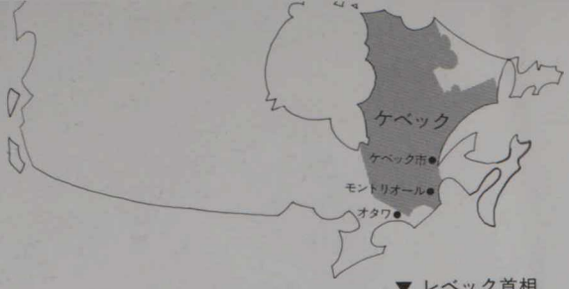

ケベック州で分離派が圧勝

トルドー首相、統一を訴える

十一月十五日に行われたケベック州議会選挙で、カナダ連邦からの分離独立を目指すケベック党（ルネ・レベック党首）が、百十議席のうち六十九議席を制して圧勝した。英仏両民族を中心に結成され、二言語、複合民族国家を国是とするカナダは、これによって建国以来の大きな試練に直面したといえよう。

しかし、ケベック州民が果たして分離を望んでいるかどうかは、即断しがたい。投票前の世論調査では、州民の五六パーセントが分離に反対し、賛成はわずか一八パーセントだった。ケベック党の勝利は、むしろ、失業問題やインフレ、高い税金などの現状に対する不満が原因であった、とするのが一般的な見方である。

レベック党首（十一月二十五日に首相就任）自身も、ケベック党の目的は州レベルで健全な政治を行うことであり、ケベック独立の是非については、二年以内に改めて州民投票を実施すると公約し、「もしコンセンサス（合意）が得られなければ、その事実を尊重しなければならない」と述べている。選挙運動でも、一〇・一パーセントに達した同州の失業率、カナダで最も高い税金、十億ドルの財政赤字を中心に、ブラッサ前首相の政権を攻撃した。

▼レベック首相

AP

ケベック州における分離派の勝利について、連邦政府は深刻に受けとめているが、カナダの統一を守る決意に変わりはない。ケベック党の勝利が明らかになった直後、トルドー首相は議会で「当政府はケベックを含む全カナダを治めるよう国民の委託を受けており、国の分割は認められない」と、分離反対の立場を強く主張している。

トルドー首相は、また十一月二十四日、テレビ、ラジオを通じて、ケベック党が過去二回の選挙で独立を掲げて戦って負け（前回の一九七三年の選挙では、わずか六議席を獲得）、分離よりは健全な州政に重点をおいた今度の選挙で勝利を得たのは、州民が実際には分離を求めていないことを表わすものだ、またケベック州民は新しい政府を選んだだけで、分離を委託したわけではない――と強調した。

トルドー首相は、さらに、州政府はこれから学校問題、投資の安定化、労使関係など、いくつかの難問に直面することになるが、インフレや失業問題、医療保険、地域格差の是正など、州と連邦政府が協力して解決すべき問題も多く、これらについては連邦政府は協力を惜しまないとし、またケベック州民の自由と独立は、連邦に残ったほうが最も保証されるのか、あるいは分離したほうが保証されるか、国民は言葉だけでなく、行為と態度を通じてこの問題の解決を考えるべきだ、と訴えた。

（ケベック州はカナダ全土の一五%、全人口の二七%を占める。フランス系カナダ人の中心で、州民の八〇%はフランス語を母国語としている。）

外務大臣にジェイミソン氏
トルドー内閣の新陣容

トルドー首相は、九月と十一月に小規模な内閣改造を行った。その結果、ドナルド・ジェイミソン前通産大臣が外務大臣に、マケッカン前外務大臣が枢密院議長に任命された。またレオナード・マルシャン氏が初のインディアン出身の連邦政府閣僚になったほか、女性が初めて三人も閣僚の地位を占めることになった。新内閣のメンバーは次の通り。

●首相　ピエール・トルドー　●枢密院議長　アラン・マケッカン　●通商産業大臣　ジャン・クレチェン　●大蔵大臣　ドナルド・マクドナルド　●労働大臣　ジョン・マンロ　●法務大臣・検事総長　スタンリー・バスフォード　●外務大臣　ドナルド・ジェイミソン　●内閣予算局長官　ロバート・アンドラス　●国防大臣　バーニー・ダンソン　●運輸大臣　オットー・ラング　●エネルギー・鉱山・資源大臣　アラステア・ギレスピー　●農業大臣　ユージン・ウェーラン　●インディアン問題・北方開発大臣　W・オールマンド　●科学技術大臣　ジェームス・フォークナー　●復員軍人大臣　ダニエル・マクドナルド　●厚生大臣　マーク・ラドンド　●通信大臣　ジーン・ソープ（女性）　●上院与党総務　レイモンド・ペロー　●都市問題大臣　アンドレ・ウェレ　●公共事業大臣　J・ブキャナン　●漁業・環境大臣　ロメオ・ルブラン　●地域経済開発大臣　マーセル・レサード　●人的資源・移民大臣　ジャック・クーレン　●通産省国務大臣（中小企業担当）　レオナード・マルシャン　●文化大臣　ジョン・ロバーツ　●国税大臣　モニク・ベジャ（女性）　●郵政大臣　ジャンジャック・ブラー　●訴務大臣　フランシス・フォックス　●消費者・法人行政大臣　アンソニー・アボット　●厚生省国務大臣（国民スポーツ担当）　アイオナ・コンパニョロ（女性）　●国務大臣（無任所）　ジョセフ・ゲイ

ジェイミソン外務大臣

外務大臣ジェイミソン氏は、ニューフアウンドランド出身で、五十五才。テレビ業界出身で、放送法の整備などに活躍。一九六六年に政界入りして以来、国防生産大臣、運輸大臣、地域経済開発大臣、通商産業大臣を歴任した。

筑波、慶応両大学にカナダ講座

筑波大学と慶応大学にカナダ講座が開設された。慶応大学の講座は学部および大学院学生を対象に、現在ヨーク大学のヘンリー・ネルス准教授がカナダ史を講義している。同大学では、当初の予定として、一応五年間を目途に、主に人文・社会科学分野の講座を通じてカナダについての総合的理解を深めたい考え。筑波大学では、ネルス教授が第二学部文科学類で国際関係論・カナダ学を担当しているほか、大学院の地域研究研究科にカナダ研究専修コースを設けている。専修コースは現在のところ、カナダ研究概論、カナダ研究演習、カナダ研究・政治（および経済）、カナダ研究・歴史の四講座からなっている。